

2019年1～2月掲載分

2019年3～4月掲載分

習志野 大慈弥 爽子

街中の光が星となる聖夜
著ぶくれて怠け心を太らせる
期待などなけれどバレンタインデー
月蝕の残る光を凍らせる
湯気立に喉の機嫌を問ふ夜更

藤沢 藤田 富子

あるじ無き庭にひときは蔦紅葉
俳聖の行脚を偲ぶ冬日和
焼薯の売り声ひびく夜のしじま
朽ち果てし古寺深閑と冬に入る
冬日和仏のお顔慈悲に満つ

八王子 石井 蓉子

湯舟にも届く焼薯売の声
ボーナスやもったいなくて仕舞ひ込む
山茶花の花びらハートの形して
一仕事終へれば冬日はや落ちて
ゆっくりと身体沈めている柚湯

町田 小森 まさひこ

元朝やまた一年が始まりし
百枚の札を並べて冬座敷
頬刺して身を切りしごと風冴ゆる
凍月のまん丸にして中天に

松尾芭蕉

元旦や思えばさびし秋の暮
似合しや新年古き米五升
天秤や京江戸かけて千代の春
元旦は田毎の日こそ恋しけれ
門松やおもへば一夜三十年

2019年5～6月掲載分

2019年7～8月掲載分

2019年9～10月掲載分

2019年11～12月掲載分